7ZK-04

ヒットソングの曲調とその歌詞の傾向

三木彩由佳† 川合康央‡
文教大学　情報学部　情報システム学科

概要：本研究は、日本のヒットソングの曲調とその歌詞について調査し、その傾向について検証したものである。調査方法として、歴代年間シングルランキング上位曲を対象とし、長判定とテキストマイニング、最高音と最低音に配置された単語の抽出を行った。その曲調と歌詞の配置の共通点や時代に伴う変化とヒットソングになった要因を考察した。

1.　はじめに

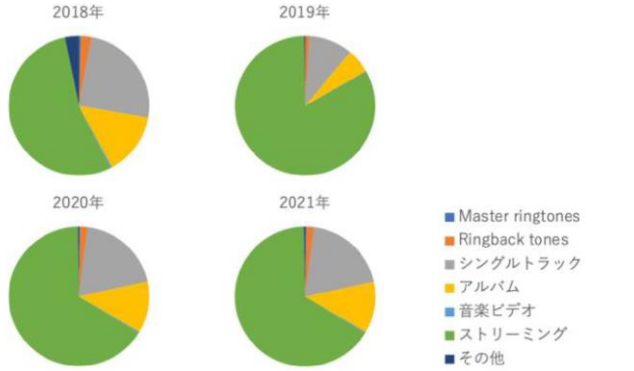
音楽は古くから親しまれ、多くの人々が視聴している歌謡曲やJ-popと呼ばれるポピュラー音楽の普及は、明治以降から長く続いている。年々、音楽媒体は 19 世紀後半に開発された録音技術から、普及が進み文明の発展によって人々の生活に合わせて変化しながら今も成長を続けている。2022 年、日本の音楽市場の規模は世界２位を記録し、オーディオレコード、音楽ビデオ、音楽配信を含めた収益は 2832 億円と前年度より 4%上昇した。

表１ 2021 年の音楽ソフト・音楽配信売上金額
（数量：千枚・回 / 金額 ：億円）

	数量	前年比	金額	前年比
オーディオレコード	105994	100%	1280	99%
音楽ビデオ	45038	111%	656	102%
音楽配信	72826	103%	895	114%
合計			2832	104%

参考文献[1]をもとに著者作成

CD 売り上げは減少したものの、サブスクリプション等のストリーミングによる音楽の収益が増加し、音楽配信売り上げを占める割合が年々増加している。



参考文献[1]をもとに著者作成

図１　音楽配信売上金額比率

ストリーミングの普及に伴い、楽曲の入手が容易となり、より音楽が身近な存在となった。またサブスクリプションの利用者の増加によって、定額で多くの楽曲を試聴でき、好みの音楽との出会いも増え、リアルタイムで流行曲を確認できるようになった。今回、調査対象としたオリコンチャートでは 2018 年から CD 売り上げ以外のデジタル・ダウンロードでの売り上げを集計に含めている。

リリースされた楽曲がヒットソングとなる要因として、歌詞やメロディー、タイアップした作品のヒットなどが考えられる。本稿では、歌詞とメロディーに着目して、時代に伴う変化や傾向を検証することとする。

2.　関連研究

ヒットソングを題材としている研究はこれまでにもいくつか見られる。保原による「ヒット曲は景気を語る（唄う）か？昭和と平成におけるヒット曲＝流行歌の調整，テンポと経済状況の関係」[2]「ヒット曲は景気を語る（唄う）か？Ⅱ昭和と平成におけるヒット曲＝流行歌の調整，テンポと経済状況の関係」[3]や、左古による「ヒットソング歌詞の変遷:1968 年から 2013 年まで」[4]は、ヒットソングを対象に、調やテンポ、歌詞に着目して性質や傾向について分析を行っている。本研究では、これらを踏まえ、ヒットソングの時代ごとの性質や歌詞の配置の変化やその要因を分析したものである。

3.　研究の方法

調査方法として、対象を 1968 年から 2022 年までのオリコン歴代年間シングルチャート上位曲([5]オリコン)として、調判定とテンポを Tunebat[6]、歌詞の単語や頻出についてはユーザーローカルテキストマイニング[7]を用いて、最高音と最低音で使用されている歌詞を抽出することで分析を行った。曲調を定量化するため、♯1 つを+1、♭1 つを-1 として計測を行った。変種調は穏やかで憂鬱な感情を表し、嬰種調は自由奔放で激しい情熱を表すため([8]滝藤 2004)数値が大きければ大きいほど激しく、小さければ小さいほど静かな印象を与える。

About the melody of hit songs and trends in their lyrics
†Ayuka Miki・Department of Information Systems , Faculty of Information Science, Bunkyo Unibersity
‡Yasuo Kawai・Department of Information Systems , Faculty of Information Science, Bunkyo Unibersity

Copyright ©2024 Information Processing Society of Japan.
All Rights Reserved.

4. 結果と考察

調判定とテンポ集計を行った結果、以下のことが分かった。調は全体を通してやや嬰種調の楽曲が多い結果となった。昭和時代では、嬰種調と変種調の振り幅が比較的小さく、平成・令和時代では大きい。テンポでは年代ごとにばらつきが大きい結果となった。近年ではテンポの速い楽曲が好まれ、2003年以降はオリコン1位の楽曲全てが100bpmを上回っている。この一因として”タイパ”の重視が挙げられる。費やした時間に対する結果の満足度の高い楽曲が好まれるため([9]瀧本 2023)、メロディーや歌詞等の情報を短時間で得やすい楽曲が選ばれた結果だと考えられる。また、これらの要素やその増減の推移に相関は見られなかった。

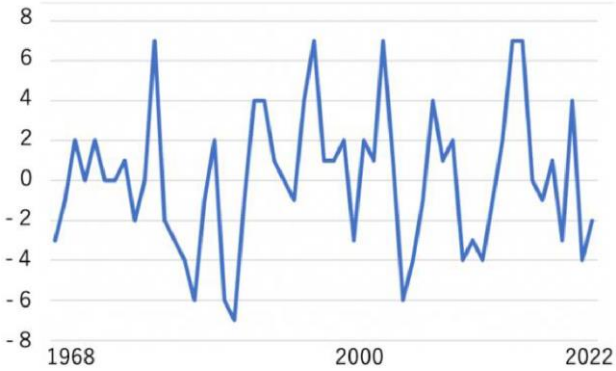


図2 調の推移

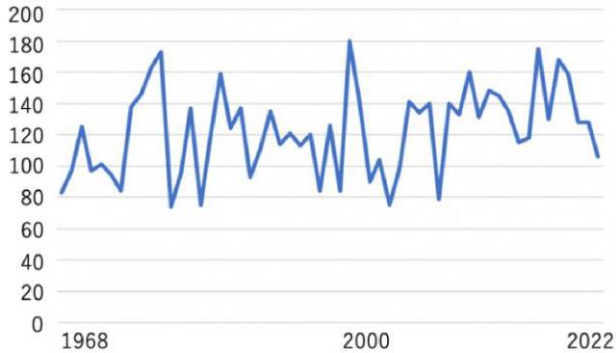


図3 テンポの推移

名詞・動詞・形容詞の単語数と調の相関はそれぞれ r=-0.253 , 0.294 , 0.023、テンポとの相関は r=0.243 , -0.259 , 0.196 と弱い相関が見られた。

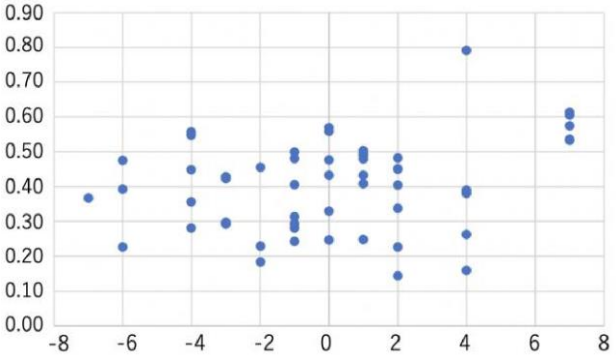


図4 動詞の割合と調の相関

これらの相関係数の中で一番数値の高い動詞の頻出と嬰種調の相関については、弱い相関ではあるが歌詞の動きを表現する動詞と曲調の自由や激しさを表す嬰種調が組み合わさることで、より人々から好まれるようになったと推測される。
最高音・最低音で使用された単語について、主に昭和時代では楽曲のテーマを表す単語がどちらかで使用されることが多いと分かった。しかし、近年ではso,ah等の間投詞が使用されることも増えている。これらのことから、盛り上がりや導入の部分でテーマに関する単語をはっきりと表現する意識が徐々に薄れていったのではないかと推測する。また、最高音・最低音で使用される単語の品詞や前向き・後ろ向きのような特徴の決まった傾向は見られなかった。

5. まとめ

本研究は楽曲の調判定・テンポ計測・歌詞のテキストマイニングを行い、歴代の流行歌の傾向とその要因について分析を行った。結果、弱い相関ではあるが、時代の経過とともにテンポが早く歌詞に動きがあり、楽曲の盛り上がりや導入に影響されない歌詞の楽曲がヒットソングとなりやすい傾向があることが分かった。しかし、これらにはばらつきがあり、今後の課題として、楽曲の対象をさらに広げ、より正確なデータの収集、アイドルの握手券等CD売り上げ増加について考慮した分析が考えられる。また、本研究で楽曲の対象としたオリコンチャートの集計方法が現代の音楽市場の指標として適性であるか検証することも課題として挙げられる。

参考文献

[1] “The Recording Industry in Japan 2022”. https://www.riaj.or.jp/f/pdf/issue/industry/RIAJ2022.pdf, (参照 2023-12-26)
[2] 保原信弘. ヒット曲は景気を語る（唄う）か？昭和と平成におけるヒット曲＝流行歌の調整, テンポと経済状況の関係. 行動経済学. 2009. 2. P141-144
[3] 保原信弘. ヒット曲は景気を語る（唄う）か？Ⅱ昭和と平成におけるヒット曲＝流行歌の調整, テンポと経済状況の関係. 行動経済学. 2010. 3. P160-161
[4] 左古輝人. ヒットソング歌詞の変遷:1968年から2013年まで. 人文学報.2015.497. p49-85
[5] オリコン ランキング https://www.oricon.co.jp/rank/ (参照 2023-5-23)
[6] Tunebat https://tunebat.com (参照 2023-12-26)
[7] ユーザーローカル テキストマイニングツール http://textmining.userlocal.jp/(参照 2023-12-26)
[8] 滝藤早苗. E.T.A. ホフマンの調性格論 -C.F.D.シューバルトの見解との比較-.慶應義塾大学日吉紀要.ドイツ語学・文学.2004.38.p55-76
[9] 瀧本禎之.タイパと深い観察.心身医学.2023.63.3.p200-201

Copyright ©2024 Information Processing Society of Japan.
All Rights Reserved.